



食の安全 「基本のお話」

第132回

あなたの「それ、気になってた!」を解消する 食の安全 Q & A



Q

食品の放射性物質について国の基準はゆるいと聞きましたが、生協の考えを教えてください。



A

■食品中の放射性物質

消費者庁の見解では、「食品中の放射性物質に関する基準値は、一般的な食生活の中で基準値に近い放射性物質を含む食品を継続して摂取しても健康影響がないように設定されており、実際に流通している食品の放射性物質は基準値よりも低いので、実際に受ける放射線量は非常に小さい値となっています」とされています。

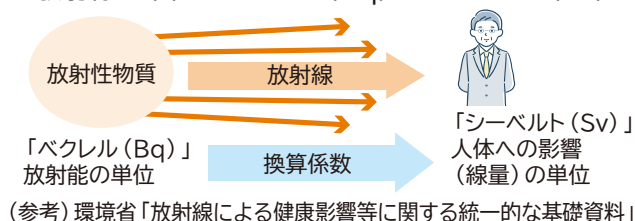
現在では、生産者や流通・加工関係者、行政等が取り組んでいる食品中の放射性物質に関する管理措置が効果を発揮しており、日常の食生活から摂取する放射性セシウムは、健康に被害が生じる量ではないと考えます。

■私たちは常に少量の放射線を受けながら生活しています

人間の細胞の中のDNA（遺伝子）は、日常生活の中でストレスやたばこなどから頻繁に損傷を受けており、放射線のエネルギーからも損傷を受けます。しかし、こうしたDNAの損傷に対して、人間をはじめとする生物は修復するしくみをもっており、ほとんどの細胞は元に戻ります。

放射線にはさまざまな種類がありますが、シーベルト（Sv）という単位によって、放射線の影響を同じ尺度で比べられます。少量の被ばくでも、がんなどの健康影響が出る可能性はゼロではありませんが、「100mSv（ミリシーベルト）未満」の被ばくによる人体影響は、他の要因による発がんの影響に隠れてしまうほど小さいといわれています。

■放射線の単位 ベクレル（Bq）とシーベルト（Sv）



■食品中の放射性物質の基準

食品から追加で受ける放射線量が「年間1mSv」を超えないように、放射性セシウムの基準が設定されています。「年間1mSvは、自然からの被ばく量の地域差の範囲内で、だれでも受け入れ可能な目安」とされています。（国際放射線防護委員会見解）

■放射性セシウムの基準値（Bq：ベクレル）

食品群	飲料水	牛乳	乳児用食品	一般食品
基準値（Bq/kg）	10	50	50	100

福島第一原子力発電所事故で主に放出されたのが、放射性セシウムです。

放射性セシウムの基準値は、他の放射性物質による影響も考慮されています。

消費者庁では実際に流通している食品を購入し放射性セシウムの濃度を測定しており、食品中の放射性セシウムから受ける線量は1年間で0.001mSv程度（1mSvの0.1%）です。

※消費者庁 令和6年2・3月 マーケットバスケット方式による調査



(参考) 消費者庁
食品の放射性物質の基準値と
摂取量調査



(参考) 消費者庁
「食品と放射能Q&A ミニ」

■食品中の放射性物質検査

いずみ市民生協の商品検査センターでは、2011年の福島第一原発事故直後から放射性物質の検査を実施しており、基準値を超えることはなくすべて「検出せず」となっています。

※検査結果は毎月の「アピエ」の「品質管理だより」で報告しています。

